

ささやく声に耳を澄ませて

谷口 尚志 (福岡司教区司祭)

235 「行ってきます！」

●マルコ6・7-13

皆さんはどこかへ行く時には「行ってきます！」と言って出かけているでしょうか。もちろん無言で出かけることもあるかもしれませんが、しかし、無言で出かけることに寂しさを感じるのは私だけでしょうか。

きょう読まれたマルコによる福音書6章7-13節は、「人間をとる漁師にしよう」(マルコ1・17)と言われて呼び集められた12人が派遣される場面が描かれています。この12人の弟子たちのことをギリシャ語で「アポストロス=使徒」と言いますが、それは「派遣される」を意味する「アポステッロー」に由来しています。つまり、イエス様に呼び集められた弟子は、派遣される者となるのです。

さて、12人の使徒を派遣するにあたって、イエス様は2人ずつ組みにします(7節)。これは、イエス様がその中にいると約束された人数だったので、イエス様を中心にして、行く先々で共同体が形成されていくことを意味しています(マタイ18・20参照)。さらに、このことは困難や試練と向き合う時に、支え合うことをとおして、決して孤独ではないことを理解させることになったでしょう。

ところで、イエス様は汚れた霊けがに対するご自分の権能を授けた彼らを派遣するにあたって、困難な要求をされます(8-9節)。それは、権威を表す杖つえと、一般的な履物であったサンダルの他は何も持たない、パンを持たず、旅に必要な食糧も受け取れないように袋も持たないようになどというものでした。しかし、この要求に従うことは、すべてを神に委ねることを貫く姿そのものであり、その姿に感銘を受けた人が家に迎え入れてくれることとなります。最後にイエス様は、旅立つ時までその家から与えられるもので満足するようにと、そこにとどまるように忠告し、福音を受け入れない人に対しては「足の裏ほこりの埃を払い落とす」ように言われています(10-11節)。拒絶を意味する、この象徴的な行為(使徒言行録13・51)によって、決定的に神の救いにあずかれないことがないようにと使徒たちは祈ったことでしょう。

私たちがイエス様から世の中へと派遣されている一員です。ただ一つの大切な持ち物であるイエス様を生活の中心に据える覚悟を持って、元気に「行ってきます！」と告げて出発することができますように。

「ふくいんひろば」指導のヒント●わたしたちの努力や準備はもちろん大切です。しかし、福音を伝えるために、本当に必要なのは、それぞれのこころに働きかけてくださるイエスさまなのです。イエスさまに信頼して、神さまのメッセージを伝えるためにどんなことができるのか、子どもたちといっしょに考えましょう。